

# イデックスオイルレポート ~For a week~

2021/1/8作成 (株)新出光

## 【概況】 <年始は上げ基調で始まる>

●4日、石油輸出国機構(OPEC)加盟・非加盟の主要産油国で構成する「OPECプラス」は4日に会合を開き、2月の産油量について協議しました。OPECプラスは先月、2021年は段階的に生産量を増やすことを決め、今月から日量50万バレルの増産を実施しています。ただ、新型コロナウイルス感染拡大に歯止めがかからない中、来月は1月水準に据え置く公算が大きいとの観測が広がり、相場は未明に一時49.83ドルの高値を付けました。

●5日、英国で確認された感染力の強い新型コロナウイルスの変異種が世界的に拡大する中で、OPECプラスが現行の減産規模を維持するとの期待が高まっています。米メディアは5日、サウジアラビアとロシアが2月は現行の減産規模を維持し、3月から段階的に減産を縮小していくことで歩み寄ったと報じました。OPECプラスは昨年12月の会合で今年1月から減産規模を段階的に縮小していくと決定しています。2月以降の対応が焦点となりそうです。また、イラン国営メディアが4日、韓国の商船をペルシャ湾で拿捕したと報道による地政学的リスクへの警戒感の高まりも、原油の押し上げ材料となっています。

●6日、EIAが発表した週間在庫統計では、原油在庫が800万バレル減と、市場予想の210万バレル減を大幅に上回る取り崩し幅となりました。これを受けて、需給緩和懸念が後退し、原油が買われました。一方、ガソリン在庫は450万バレル増(同予想150万バレル増)、ディスティレート(留出油)は640万増(同予想230万バレル増)でした。

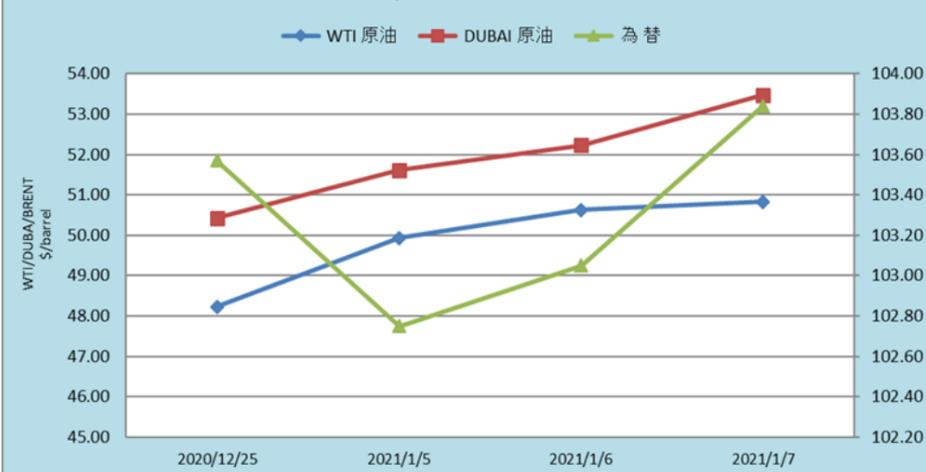
●7日、サウジアラビアのアブドゥルアジズ・エネルギー相は5日、「われわれは石油市場と石油産業を支える」と表明し、2~3月に自主的に日量100万バレルの追加削減に乗り出す姿勢を明らかにしました。これが引き続き材料視され、需給緩和懸念が後退し、6日の米エネルギー情報局(EIA)週報で、原油在庫が市場予想を大きく上回る取り崩しを示したことも投資家心理を支え、相場は堅調に推移しました。

1月8日 17:00現在 WTI原油 51.06ドル 為替 1ドル 104.03円

国内石油製品在庫 1月2日時点



ドル/bbl WTI・DUBAI / 為替 相関グラフ



## 次回元売変動予測

	1/14~	元売変動予測
ガソリン	➡	+0.5~+1.0
灯油	➡	+0.5~+1.0
軽油	➡	+0.5~+1.0
A重油	➡	+0.5~+1.0
LSA	➡	+0.5~+1.0

※現段階の原油コストによる予想です。

## 【製品卸価格】 <先高懸念に様子見対応も>

《今週》今週の元売り仕切り改定は「+0.5円」の値上げ改定でした。原油コストが見えにくい状況でしたが、改定後は先高期待が広がりおおよそ値上げが浸透しました。月間リンクの仕入れ玉も様子見や見積り非表示など対応が様々でしたので年始の市況は昨年末に比べ「1.0~1.5円」程度値上げが進んでいる状況です。

《1月9日以降》来週の元売り改定予測は現状の原油コストで「+0.5~+1.0」の値上げ予測です。次回の値上げが濃厚なため週末を含め仮需が起きています。気象庁の週間気温予報で9日~15日は昨年より気温が低い見込みであることから、灯油の需要は引き続き旺盛のようです。ただ、ガソリンについては、7日に東京を含む一都三県に2月7日まで緊急事態宣言が発出され、今後それ以外の地域にも広がっていくことになれば、枠消化が進まなくなる可能性が高まるために、1月後半には市況が悪化する可能性が大いに考えられます。先高警戒により月間リンクの仕入れ玉は売りづらい状況ですので、売り攻勢を強める前に、販売を進めることをお勧めします。

## 【トピック】 <OPECプラス会合2・3月分決着>

OPECプラスは1月から実施している日量720万バレルの減産について、2月以降に当初の予定通り最大50万バレル縮小するか、現行の減産規模を維持するか協議しましたが、結果2月は、日量712万5,000バレル、3月は705万バレル減産することで一致しました。会合で2月は1月と比較し、ロシアとカザフスタンは合わせて日量7万5,000バレル増産しますが、サウジアラビアが2~3月に自主的に日量100万バレルの減産を行うことを表明したことで、産油国全体の生産としては追加減産することになります。これによる需給改善期待が広まったことが相場の強材料として働いています。また、米エネルギー情報局(EIA)が6日に発表した週間石油統計で、米原油在庫が前週比800万バレル減少したことや、米上院の決選投票の結果、民主党が勝利し、大統領と上下院の過半数を民主党が占めることが決定したことでバイデン次期米大統領による大型経済対策の実現期待が強まり、米株価さらには株と同じリスク資産である原油先物も買いが先行しています。足元の材料としては、底堅い状況が続きます。